

副会長会の報告

期日 平成24年8月1日(水)
会場 全国連合退職校長会
事務局 会議室

出席者

- 北海道 戸張 敦雄 会長
 - 西 寛 副会長
 - 東北 杉山 紘二 副会長
 - 関東甲信越 岩佐 喜一 副会長
 - 東京 片岡 敦子 副会長
 - 東海北陸 大竹 武士 副会長
 - 近畿 西川 芳徳 副会長 (欠席)
 - 中国 徳永 耕一 副会長
 - 四国 上甲 一光 副会長
 - 九州 富永 憲市 副会長
- 他に本部長・各委員長、事務局長及び事務局職員、計21名が出席。

◇会議の概要

司会 総務部長 入子 祐三

一、開会のことば

副会長 西 寛

二、戸張会長挨拶(要旨)

本会は、設立以来50年近くが経過した今日、かつては財政状況等が右肩上がりでしたが、近年、少子化・学校の統廃合・校長数の減少等で、かげりが見えてきました。そこで財務状況を勘案して本部の組織・機能を改めるといふことで、本部の中に「財務状況健全化検討会議」「会務運営検討会議」「組織対策検討会議」を設けて鋭意検討を進め、平成25年に臨む計画を立てています。

本年は、副会長の異動があり9名のうち3名の方が新たに就任され、更なる新風を吹き込んでいただくことを、ご期待申し上げます。

三、報告

1 総会・常任理事会の報告

総務部長 入子祐三

(略)

2 各部・各委員の事業の進捗

状況

総務部

- 理事会・総会の準備・運営
- 中央省庁への要望書提出
- 文部科学省初等中等教育局長との懇談会の企画
- 現職幼・小・中・高・特別支援校園長との連絡懇談会実施

教育振興部

- 「教育の日」の制定推進及び事業の充実に寄与する。
- 地域社会の教育上の役割と責任について研究する。
- 過去の師範教育との比較の上で教員養成の在り方を研究。
- 「教育憲章」の趣旨の徹底・普及を図る。

福利厚生部

- 年金・医療・介護等に関する要望活動
- 平成25年度に米寿・上寿を迎える会員の調査
- 平成23年度春秋叙勲受章者の調査

会報部

- 年間4回(184号・185号・186号・187号)発行する。
- 1月発行(186号)の会報は、新会員勧誘支援用として希望する都道府県に増配する。

会計部

- 諸事業が順調に進められるよう会務の適切な執行・運用に努める。
- 組織を支え会務の円滑な活動を推進するために、「財務状況健全化検討会議」を開催し今後の対応策を具体的に検討。

生涯学習委員会

- 会員の組織的な活動情報収集
- 特色ある活動をしている県の選定。

教育課題委員会

- 中央教育審議の各部会で審議されている課題を中心に研究し、要望や教育振興に寄与す

べく活動を展開（高等教育・幼小・小中・中高の連携）

事業委員会

● 第5回出版図書の講読状況の

分析、編集企画の反省と考察。

● 第6回出版は、平成26年12月を目安とし、出版意図として

「地域の伝統・文化等の特色を生かした創意ある教育活動の事例」などの視点を考えている。

3 各省庁への要望書

● 内容の詳細は、本誌P2～3参照。

四 各地区の現状と課題

① 北海道地区 会長 西 寛

● 新会員加入促進については、支部代表者会で各支部の取り組みを交流し、参考になることはお互い参考にしていくことを考えている。

● 「会務運営検討委員会」が答申して2年目に入り、会議が減ったり経費節減等による歪

みが出てきたり不手際があり、難しい問題もある。答申をクリアできるように努力している。

② 東北地区 会長 杉山紘二

● 今なお被災した会員の状況把握がつかめていない。郵便物を送っても戻ってくる現状。

● 全連退の会費免除に感謝。本年もお願いしたい。予算規模の縮小・圧縮、事業計画を見直しているが、何とか元に戻す工夫を検討している。

● 新入会員との懇談等を通して生活の様子や退職校長会の存在等を話し合う予定である。

③ 関東甲信越地区 会長 岩佐喜一

● 各県とも新会員の加入率が低下、退会者が出てきている。そのため、組織の強化、現職校長会との教育懇談会等を実施する県が多い。幸いリーフレットができあがっているようなので、各県ともその活用を図るよう地区として取組んでいきたい。

④ 東京地区 会長 片岡敦子

● 地教委の研修会への支援を本年度から始めている。某区で新任教諭が60名いるが、その新任者の2年次研修会を都退職校長会が受け持つて実施。

⑤ 東海北陸地区 会長 大竹武士

● 現職校長へのサポート体制の在り方や教育現場への支援の在り方の工夫を検討している。

● 地区協議会の中で、各県の長所を受け取り、自分の退職校長会の資料にして中身を膨らませていきたい。

⑥ 中国地区 会長 徳永耕一

● 新入会員の減少傾向として、絶対数の減少ということが、各県とも同様の傾向。小・中一貫校がかなり開校し、校長の数が減ってきている。

● 退職後嘱託職員として、かなり常勤勤務をしている。役員のなり手が少ない。旅行・囲碁大会などを計画しても、集まりにくい傾向がある。

⑦ 四国地区 会長 上甲一光

● 年に1回、四国4県の役員が一堂に会し、時宜に応じた議題を設定したり、情報交換を行っている。また、懇親会等も催している。

● 四国地区の流れの一環として地区の会報を作ろうという提案があり、その第1号が発行された。発行を2年に1回にするかどうかは、今後の課題になっている。

⑧ 九州地区 会長 富永憲市

● 「九州は一つ」の認識に立ち沖縄県から「九州地区退職校長会綱領」を作ろうという提案があった。本年5月の宮崎大会の会長部会で「綱領は必要である」という結論に達し、各県、A・B案を持ち帰って検討し、10月末に九州地区会長へ回答することになっており、平成25年の大分大会で決定する計画である。

五、閉会のことば

副会長 杉山紘二